



The Y's MEN's CLUB of

もりおか



<VOL112.2017.4>

もりおかクラブ事務所：〒020-0804 盛岡市本町通3丁目1-1 Tel 019-623-1575 盛岡YMCA内
盛岡YMCA HP <http://www.ymcajapan.org/morioka/> 検索エンジンワード「盛岡YMCA」

「主題」

国際会長 Joan Wilson
アジア地域会長 Tung Ming Hsiao
東日本区理事 利根川 恵子
北東部長 長岡 正彦
もりおかクラブ会長 井上 修三

「私たちの未来は、今日より始まる」
「ワイズ運動を尊重しよう」
「明日に向かって、今日動こう」
「明日のために、いま土台を築こう」
「2017チャリティラン in 盛岡を成功させよう」

今月の聖句 マタイによる福音書18章35節

「あなたがたの一人一人が、心から兄弟を赦さないなら、私の天の父もあなたがたに同じようになさるであろう。」

会長 井上 修三
副会長 三田 庸平
書記 濱塚 有史
会計 大関 靖二
担当主事 小川 嘉文
メネット 井上 優子

5月定例会のご案内

日時 平成29年5月12日(第2金曜日) 18時30分
場所 ジャーラン、ジャーラン 会費2,000円
卓話 長野クラブ、小林美彦メン「バリアフリーについて」
第二例会 5月19日(金) 18時30分
場所 きのえね本店

井上会長巻頭挨拶



井上会長

「40代からの20年が60代の生き方を決める」健康面での言葉だったと思いますが私なりに考察してみました。私は現在73歳、8月で74歳になります。どちらかという健康な部類に分類されるでしょう。(もっとも3年前に大腸癌で手術を経験しましたが。)パートナーからは「仕事中毒」と言われております。

いいじゃないですか、「ひたすら働く人間の美しいこと。」1943年に生を受け、苦しいことが日常の生活環境で育ったのですから「常に動く、働くことは当たり前」がしみついています。職種も様々経験しましたが、「いやだ」「つらい」の類の思いは抱いたことがありません。しっかりと会得をし、今も十分に活用できることもあります。20代後半で家庭をもち、家庭よりは仕事に全力を傾けた(今でもその延長上)らしい。(土曜日、日曜日にも家にいたことがないとパートナー、子ども達も口をそろえて言います)現在の仕事は43年となります。16年前までは1会社員として雇われ

の身でした。60人規模の事業所でしたが、誰よりも早い出勤、残業は毎晩(家では「飯」「風呂」「寝る」の繰り返し)残業は強いられただけではなく自分の仕事をこなすだけ。(もちろん手当てはありません。)両親が来仙のおり、私の様子をパートナーから聞いて「修ちゃんらしい！」と笑っていたそう。

こんな状態ですから、喫煙、飲酒、レジャーからほど遠い40年となりました。このことが比較的健康的に過ごせたのではと今改めて思うのです。反面、無趣味、食べ物に興味がない、知に欠けるなどの紛れもない事実も認めないわけにはいきません。ワイズ活動での「労働力提供」「人と人は繋がっている」の信念は揺らいでいないことは自信をもって言うことができます。知に欠ける文章もあと1回と思いきや、「次年度も会長をやりまします」と手を挙げたことを思い出しました。

4月第一例会の報告

平成29年4月8日(土) きのえね本店で開催。出席者:山口、大関、長岡、井上、井上優子、三田、及川、小川、千葉(敬称略) ゲスト、村田 里文様(元MOA美術館勤務)、高館 千恵子様(唐丹希望基金2020プロデューサー)、伊藤 陸さん(盛岡YM

CAリーダー、ショッカー)、小野寺 保乃香さん(盛岡YMCAリーダー、チーズ。)、菊地 望さん(盛岡YMCAリーダー、さそり)、以上14名の参加で開催されました。宅話は、村田 里文様「新しい未来のために」と題してお話をいただきました。この後特集しております。映画「クワイ河に虹を架けた男」の上映会のお礼と報告に高館様が2度目の例会に参加してくれました。、大盛況に終わった上映会のアンケートの集計や感想などを報告していただきました。また、井上会長が出席してきた長浜クラブ様の30



長浜クラブ様より献金をいただきました。宮古ボランティアセンターへ贈呈しました。

周年記念例会において、震災復興基金へ献金をいただけてきました。例会で、宮古ボランティアセンターへ贈呈されました。ありがとうございました。長浜クラブ様は東北大震災直後、4WDのワゴン車をいち早く宮古へ届けてくださいました。この車は復興支援ボランティアの輸送に大活躍し、現在もとても重宝に使用させていただいております。



4月定例会集合写真、村田様の入会が期待されます。

「新しい未来のために」4月定例会卓話。

村田 里文様



村田 里文様

村田と申します、本日のもりおかクラブの例会に参加する前にある方と出会っています。その方は宮城県石巻市の和渚小学校の教頭、日野峻先生です。和渚小学校は震災後多くのボランティアを受け入れ、本場フィンランドのサンタクロース、東京フイルハーモニーの生演奏などでした。私は東京品川大井生まれです。父親は花屋を営んでおりましたが私は父親とは別の道に進みました。しかし、今の仕事に就いたおかげで花が大好きになりました。人生無駄なものなど一つも無いと実感しております。特に、人との出会いに無駄はありません、すべては縁です。私の出会いの最大のイベントは結婚でした。盛岡の女性と結婚して、21年前にこちらに転勤で来ました、それまでの仕事はMOA美術館という所で働いておりました。私は、明るく健康で嘘がつけない人間です、花が大好き、美術が大好き、美しい物が大好きです。6年前の東北大震災の時は仙台でアートヘルスケアをやっておりました。花を使っての心のメンタルヘルスケアです。直後から被災地を廻り始めました。今晩はそこで学んだ事をお話いたします。

震災から1週間後、女川にいきました、被害はご存知の通りです。近くに海鮮閣という旅館がありました。多くの被災民を助けた旅館です。ここへMOA美術館の関係病院の医療チームと一緒に現地に入りました。被災した方々は言葉がありませんでした。70歳くらいのおばあちゃんがありました、言葉がなく何を聞いても何も話してくれませんでした。そこで私が呼ばれ、ペットボトルを切って花をいけました。そうしたら夢中になって自分からお花を生け始めました。草月流の生け花の先生でした。花を生けるおばあちゃんを見て家族の方々が号泣しました。被災地に花を持っていくのが良いものかどうか、お花がどれだけの力があるのか正直わかりませんが、このおばあちゃんから教えてもらいました。花の力はすごい事を。人の心を開いてくれる。周囲の

方々も一緒に花を生けてくれました。おばあちゃんは自ら生けた花をいろんなところに飾りました。しばらくして石巻に行き、同じことを行いました。食料を持ち、炊き出しをして、お腹を満たした後、そこで50歳くらいの男性が花を生けました。この男性が男泣きをしました。泣くのを我慢していたのでしょうか、「俺は震災から、自分の家族の遺体も運んだ、知り合いの遺体も運んだ、でも決して泣くことはなかった。しかし今日俺はこの花を見て泣けて、泣けてしょうがない。」この事から私は「花の力ってすごいな。」と学習しました。人に寄り添い、すべてを聞かせていただき。皆様が行って来たこと私も感じる事ができました。ある家族は、子供を亡くされていました。お姉さんがいまして亡くなったのは小学校低学年の男の子です。カウンセラーの方と一緒に花を生けて、絵を描きました。夢中になって絵を描いている姿に絵の力もすごいなと感じました。この事を美術館に伝えたところ、被災地の子供の絵をもっと充実させてきなさいと指示されました子供は絵を描くことによって心が豊かになっていきます。情緒を豊かに育てるのは絵や、花や、お茶などの文化的な事を行うのがとても良いと感じました。一年後和渚小学校に行く機会がありました。文化庁が復興支援のために伝統文化を親子に伝え力にもらう取り組みを知り、MOA美術館で行った事業ですが、教育委員会の推薦により日野先生のいる和渚小学校に行きまして日野先生に会いました、体も大きい心も大きい方です。「子供が求めるものはなんでもやるのが、私たち大人の仕事だ。」学校で授業をするのも大事だが、多くの方々がボランティアに来てくれている、これを生かして文化的な事を行う。日本工芸会と手を組んで人間国宝の先生方を駆使し、伝統工芸を使ってワークショップを行いました。焼き物、木工、漆工芸、竹芸、様々です。石巻は毎年行きました。16回くらいは開催しましたが、それにより子供たちの成績がおちるかという逆だったのです。成績は石巻でトップクラスにまで上がってきたのです。被災地の子供たちが夢を持っているか、石巻教育委員会の調査では和渚小学校は断トツの90%です。そんな教育的な成果をあげたのも日野先生です。日

野先生は積極的に活動していました。石巻のYMCAボランティアセンターに出向していた東京のYMCA職員の送別会に呼ばれ、一緒にお礼をして送り出しました。このときワイズメンズクラブの方々が私を同じ仲間として接してくれました。ワイズの心の広さにも大いに感動しました。また日野先生はコミュニティを育む「百俵館」にも関わっていました。被災地に避難してきた人々が地域に混在していました。この方々の一番の問題はコミュニティが崩壊していたことでした。絆を取り戻すために蔵を改造して図書館やカフェを造りました。ここで皆さんが自発的に交わって町作りを推進していました。そこである青年が岡倉天心の

「茶の本」を紹介してくれました。明治維新後、西洋文明化していく時代にあつて日本美術だけは世界に誇るものだから、尾形光琳を現代に生かすなどの日本文化を海外に向けて主張していく本でした。花と共に歩んできた私ですが、これは人類がこの世に生まれた時から花とともに歩んできたことであると、知らされました。ここのコミュニティにおいて助け合う享受でこれからの少子高齢や、新たな災害があつても乗り越えていこうという事を深く感じたのでした。文化の発展と伝統を伝え、新しい文化を育み、震災の教訓を後世に語り継ぎスポーツの祭典東京オリンピックと共に文化芸術の発展に寄与していきたいと思っております。

「フジテン盛岡DAON」

もりおかクラブの状況報告

4月の出席率	9/11	75 %	ゲスト5名	ビジター1名	メネット1名		
メーキャップ	3	名		4月切手	15	g	累計 28 g
4月のにこにこ	10,000	円	累計 11,000 円	4月プルタブ	0	g	累計 4,670 g
4月 石鹸	0	円	累計 563 円	りんご	3,000	円	累計 円
4月震災募金	0	円	累計 0 円	ファンド合計	0	円	

会費の納入をお願いいたします。岩手銀行 松園支店(店番号 082)普通口座 2145674

もりおかワイズメンズクラブ 会計 大関 靖二

4月のハッピーパースディ 4/8 三田庸平さん 4/11 濱塚真美メネット 4/16 山口律子メネット
本日のゲスト 4/1 高館 千恵子さん お誕生日おめでとうございます。

「長浜クラブ 30周年記念例会に参加してきました。」

井上 修三

2017年4月1日(土)長浜クラブ30周年記念例会に参加しました。若手メンバーの多いことに圧倒され、また、年齢に関わりなく、共に趣味に興じているクラブの皆さんにも大いに刺激をうけました。2011年7月に3人のメンバー(松岡メン、渡壁メン、祝部メン)が12時間をかけて 苦労して調達をした乗用車を宮古までお届けくださったことを思い起こし「ありがとうございます。今も活躍しています。」と伝えることができました。かえって、「東日本復興支援金」を頂戴して帰ってくることとなりました。

「ワイズって いいなー！」をまたまた実感。長浜クラブ様の発展を祈ります。



2011/6 贈呈のワゴン車、宮古に到着当時の宮古教会前です。

東日本区YMCA理事・総主事研修会に参加

2017年度
東日本地区YMCA 理事・常(評)議員・総主事研修会
日時:2017年4月15日(土) 場所:埼玉会館 主管:公益財団法人埼玉YMCA

4月15日盛岡YMCAより、魚住理事長、濱塚総主事、浅沼慧さん、もりおかクラブより井上会長、長岡が参加してきました。初めてのYMCAの大きな行事という事で、ガラにもなく少し緊張していました。さすがにYMCA一同が集った会議はなかなかの迫力。慣れているワイズの行事とは一味が違ってました。

記念講演は元もりおかワイズの伊藤信彦さん、伊藤さんは現在福島県の堀川愛生園の施設長をしています。児童養護施設の現状や、問題点などを解りやすく解説していただきました。



伊藤信彦さん

グループディスカッションでは福島の支援について話し合いました。ここでも、福島に旅行して、福島産の物を購入または食することで支援になる日常から意識して対応していこうという結論になりました。また福島YMCA発足のための小冊子が配られ、「福島YMCA」という言葉が表に出てきました。福島YMCAが出来たら福島支援の中核になることは間違いありません。現地では福島復興に立ち上がり、一生懸命活動している高校生などもあります。個別の力を結集する意味でも「福島YMCA」の発足が期待されます。

盛岡YMCA新入生リーダー歓迎会！

4月16日、内丸教会にて盛岡YMCAの新人リーダーの歓迎会を行いました。総勢70名、新人たちは40名くらいでしょうか。見慣れたリーダーに交じって、初対面の顔がいっぱいでした。今のリーダーたちの名前と顔が20人くらいしか解っていない長岡は覚えられるか心配です。でも全員リーダーになってくれる訳ではないと、気楽に正式にリーダーになったら覚えていこうと。

4時半に教会に集合した新人たちは、先輩のサポートにより、屋外で研修開始です。もりおかワイズを含む10名の食事係も調理開始です。てんやわんやの食事作りでしたが、なんとか6時の懇親会に間に合いました。盛岡スコレ高校



元気いっぱいの調理隊です。

の「小林君と小林さん」(どちらも男の子)が長岡担当の焼きうどんの調理を手伝ってくれました。手伝うと言うよりも「僕たちがやります」という感じでした。陽子牧師の話によると、盛岡YMCAのリーダーにあこがれているとか、リーダーたちの日頃の活動の成果が垣間見られた一瞬でした。

あ、イモトアヤコがいる～。誰もがそう信じる子が登場しました。マックスです。白のセーラー服着て、眉を太く黒くぬつての登場でした。歓迎会の出し物で仮装していました。なんとこの格好で

市内に出て行ったものですから子供たちに大人気、本物のイモトアヤコがいると結構大騒ぎだったようです。新人をサポートしている先輩のリーダー達を見ているとたくましさを感じます、リーダー達も活動を通して毎年成長しているのを実感として感じました。今日も日本の若者はすごい、将来の日本は大丈夫だとまたしても感慨にふけりました。盛岡YMCAをよろしくね～。



仮装隊、中央がマックス

マックスです。

イモトアヤコです。



おおおおお、この人数、全員リーダーになったら覚えられるか～？

もう一つあった、天然記念物「モリオカシダレ」

盛岡には全国的に知名度が高い「石割桜」という天然記念物の桜がありますが、なんともう一つ「モリオカシダレ」という天然記念物の桜がありました。59年間、盛岡に生まれ育った私がこの事実を知らないとは、目から鱗が落ちました。まだまだ盛岡は奥が深い。

この桜は大正9年天然記念物調査員が龍谷寺で発見されました新種で、エドヒガンオオシマザクラの雑種です。樹性は枝垂れ性、シダレヒガンに近く、葉型はソメイヨシノに近いです。裏面は無毛、子房と花柱も無毛です。平成5年の測定によれば、幹は2.2m、樹高6.1m、枝張り8m、主幹の大部分が腐朽、周辺の一部が生きて生育しています。樹齢は150年くらいです。交雑種木の最大値に近いものと認められています。昭和11年9月3日、国の天然記念物に指定されました。



編集後記

一つの都市に桜の天然記念物が2本あるのは盛岡だけのようです。「モリオカシダレ」という名前に心地良さを感じます。いままで知らずにすみませんでした。これからは、もりおかの自慢の桜として、石割さくらと共に語り継ぎます。

桜の開花は平年並みでしたが、開花後の低温により長く花を楽しんでおります。八重桜も咲きだしました。今年も、こぶし、桜、雪柳の競演が楽しめています。厳しい冬を乗り越えた後の花の季節は実に心地よいです。村田さんの卓話のように、花と共に歩んできた人間のDNAがそうさせてくれているのでしょう。

今月ボツにした北東部の評議会記事がすこし気になります。つたない北東部長の長岡でしたが、あとは東日本区大会の部の発表で任期の仕事は終わりになります。北東部の各クラブ会長様、発表資料の送付よろしくお願いいたします。



皆様、1年間ご苦労様でした、あと少し頑張りましょう